

主な内容	
12月定例会のあらまし	1
一般質問議員と項目	1
一般質問から	2
主な質疑	3
議会の動き	3
研修報告	4

那須烏山市 Nasukarasuyama City



議会だより

発行
那須烏山市議会

編集
議会広報委員会

事務局
☎0287-88-7114



那須烏山市駅伝競走大会

みんなのタスキ、ゴールまでつなぐぞ!! (1月15日 烏山運動公園前スタート地点)

12月定例会を11月29日(火)に招集し、12月2日(金)までの4日間の会期で行いました。提出された議案はすべて原案のとおり可決しました。可決した主な議案は次のとおりです。

※なお、議決された議案の内容など、詳しくは「広報那須烏山第76号」をご覧ください。

一般質問議員と項目(質問順)

- ・平成23年度一般会計補正予算(第5号)
- ・平成23年度国民健康保険特別会計補正予算(第2号)
- ・平成23年度介護保険特別会計補正予算(第2号)
- ・平成23年度下水道事業特別会計補正予算(第2号)
- ・平成23年度簡易水道事業特別会計補正予算(第4号)
- ・平成23年度水道事業会計補正予算(第5号)
- ・那須烏山市非常勤特別職の職員の報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正について
- ・那須烏山市職員給与条例等の一部改正について
- ・那須烏山市立学校設置条例等の一部改正について
- ・那須烏山市立図書館設置及び管理条例の一部改正について
- ・人権擁護委員候補者の推薦について
- ・栃木県市町村総合事務組合を組織する地方公共団体の数の増加及び栃木県市町村総合事務組合の共同処理する事務の変更並びに栃木県市町村総合事務組合規約の変更について
- ・平成23年度農地農業用施設災害復旧事業の施行について
- ・那須烏山市立図書館の指定管理者の指定について



渡辺 健寿 議員

- 1 台風15号による市内の被害状況と対応策について
- 2 23年度の主たる事業の進捗について
- 3 公共施設の跡地利用について



中山 五男 議員

- 1 環太平洋連携協定(TPP)参加問題について
- 2 本市の財政計画について
- 3 台風15号による被災状況について
- 4 東日本大震災による本市内の影響について



渋井 由放 議員

- 1 下水道の加入率向上と今後の整備について
- 2 オートバイ等のナンバープレートについて
- 3 入札制度について
- 4 ソーラー発電の導入について
- 5 学校施設等のエアコン導入について
- 6 消防団の手当てについて
- 7 ホームページについて



平塚 英教 議員

- 1 台風15号の本市の被害状況と復旧対策について
- 2 市「総合計画後期基本計画」策定について
- 3 本市「自治基本条例」の策定を
- 4 「介護保険法」の改定に伴う本市の実施計画は
- 5 本市公共事業の適正な入札執行について
- 6 TPP(環太平洋連携協定)について



田島 信一 議員

- 1 七合中学校廃校後について
- 2 東日本大震災による公民館の改修について
- 3 那須南病院における院外設備について



高田 悦男 議員

- 1 地上デジタル放送難視聴対策について
- 2 災害対策について
- 3 公衆トイレ等の整備について
- 4 事業仕分けについて



佐藤 雄次郎 議員

- 1 災害復旧工事について(進捗状況について)
- 2 教育問題について
- 3 北朝鮮による日本人拉致問題について



樋山 隆四郎 議員

- 1 再生可能エネルギーについて



※赤字になっていたり、本紙2ページに質問と答弁の内容が掲載されていますので、そちらもご覧ください。

平成23年12月定例会 一般質問から

※質問・答弁の内容は要約してあります。
詳しくは議会事務局(TEL0287-88-7114)までおたずねください。

台風15号被害と 対応策について

渡辺 健寿 議員

(問)被害状況と復旧対応策について伺う。特に農業用施設は渇水期を活用し、春の農繁期前までに復旧工事が必要である。

◎市長 市道75件4,200万円、うち国庫補助復旧7件、市単23件、市単急復旧45件。住宅床上浸水19棟、床下浸水28棟、納屋等を含め計85棟。公共施設は3箇所、他に県管理の道路



決壊した荒川の堤防(小倉地内)

10件、河川15件で3億2,000万円。農地、農業用施設は300件で3億8,025万円、うち国庫補助事業等で農地64箇所、農用地59箇所、1億8,760万円。対策外の177箇所は市単独災害復旧事業と自力復旧となる。国の査定確定後、実施設計し、受益者と協議確認のうえ一刻も早い復旧工事に努める。



那珂川増水時の 水害防止対策を

平塚 英教 議員

(問)台風15号と上流ダムの放流によって那珂川の急激な増水により、本市那珂川沿岸地域が昭和61年水害、平成10年水害と同様に甚大な被害を受けた。那珂川の洪水のたびに住宅浸水、田畑水没、道路の冠水にあわぬよう那珂川沿岸の築堤整備と水害防止対策を早急に実施されたい。

◎市長 国は那珂川の護岸整備等の河川整備計画を平成20年度内に策定するとの事だったが今だに策定されていない。市は11月2日に国交省常陸工務事務所に①城東堤防の早期完成②同地区排水ポンプ設置③興野地区堤防事業化④下境地区堤防事業化⑤江川樋門適正管理⑥ダムの適正放流を要望した。今後とも国に対し、那珂川河川整備計画と水害防止を強く働きかける。



向田地内にある江川樋門

適応指導教室 (レインボーハウス) について

佐藤 雄次郎 議員

(問)レインボーハウスは不登校児童・生徒を受け入れる施設である。不登校の原因はいじめや家庭環境等である。現在の通級状況と学校復帰に關しての指導及び保護者・学校・指導教室の連携について伺う。

◎教育長 通級状況は、現在7名。小学生2名、中学生5名、うち1名は那珂川町である。学校復帰についてはカウンセラーや教育相談員等、専門の先生が指導し、チャレンジタイムを設けている。三者の連携については、学校・保護者との共通理解を図り、校長を始め担任・児童・生徒指導担当者が指導教室に向き連携を図っている。



TPP参加に 市長は賛成か反対か

中山 五男 議員

(問)野田首相はTPP(環太平洋連携協定)交渉に参加表明した。大谷市長には那須烏山市の首長として、TPP交渉参加に賛成か反対か。反対ならばいかなる条件が整えば賛成する考えか伺いたい。

◎市長 TPP参加表明は国民への情報提供が十分と言えず、現段階での参加表明は拙速間を認めない。今後国政等の情報を集めながら慎重に見極めたい。

(問)TPP参加により貿易自由化を推進した場合、本市内の各産業や市民生活に對し、いかなる影響を及ぼすか伺いたい。

◎市長 TPP参加は、長い目で見れば市内製造業の振興と企業誘致等の効果が期待できる反面、農業分野と地域医療の衰退が懸念される。

七合中学校 廃校後について

田島 信一 議員

(問)生徒の通学方法を伺う。通学路は旧294号線を利用するのか、その場合自転車、バス利用になると思うが、新一年生は自転車運転未熟者もいる。歩道も狭く安全なのか、父兄がもつとも心配している歩道の拡幅を要望する。

◎市長 遠距離で徒歩、自転車、公共交通機関による通学に支障のある生徒はス

クールバス利用予定である。自転車通学については安全安心な通学路調査確認の上保護者に連絡する。現在保護者から通学路防犯灯の不足箇所等要望が出ている。設置については関係自治会等と連携し改善する。

◎学校教育課長 予定されている通学路は旧294号線歩道となる。一部狭い場所もあり、県等に道路整備を要望していく。その間、安全指導を十分に行う。



4月から廃校となる七合中学校

再生可能エネルギー について問う

樋山 隆四郎 議員

(問)福島第一原発事故以来、国は原子力エネルギー政策を交換し、再生可能エネルギー(風力、太陽光、バイオマス、小水力発電)等を積極的に推進するとしている。那須烏山市としては再生可能エネルギー導入をどのように考えているか伺う。

◎市長 今年8月に実施した、総合計画実施計画の市民意向調査で、再生可能エネルギー対策は2番目に高い要望事項であった。この状況を鑑み、再生可能エネ

ルギー対策は本市として早急に取り組まなければならない重要な政策課題である。平成24年度を再生可能エネルギー元年として、実行可能なものから積極的に推進する考えである。



南那須図書館にある太陽光パネル

消防団の手当てに ついて

渋井 由放 議員

(問)消防団の年間報酬は交付税算定の目安が3万5,000円である。那須烏山市の団員の手当ては那珂川町が3万円に対し県下最低の2万2,500円である。これでは優秀な那須烏山市消防団の士氣に關わりと考える。

手当を含め、見直しを図るべきと考えるが市長の考えを伺う。

◎市長 消防団には申し訳ない気持ちで聞いた。那須烏山市の消防団は極めて優秀で県下でも一番と考えている。また、女性消防隊も新たに設置して全国で大きな活躍をした。消防団が誇りを持って活動できるように消防委員会において報酬、手当などの見直しを検討する。

公園のトイレ整備を

高田 悦男 議員

(問)「関東ふれあいの道」のコースの中の滝田ポケットパークにトイレ設置が必要と思う。保健福祉センター駐車場はバス旅行等の集合場所としても利用されているが早朝、夜間時のバスの発着時には駐車場トイレが混み合うので増設を望む。

◎市長 滝田ポケットパークについては、管理者の栃木県と協議しながら国に對する要望を検討する。保健福祉センターの閉館後は保健福祉センター駐車場トイレ1箇所であるので増設については利用状況、維持管理等を検討した上で対応したい。



トイレ設置の要望のあった滝田ポケットパーク



市街を行進する消防団(昨年の通常点検)

主な質疑

12月定例会に上程された議案の審議の中で、議員の質疑の中から主なものを要約して掲載しています。

那須烏山市非常勤特別職の職員の報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正について

議員 スポーツ基本法制定により体育指導委員がスポーツ推進委員に改まるが、人数と活動内容を伺う。
生涯学習課長 体育指導委員は定員24名、現在20名に委託している。活動内容は、スポーツ行事の参加、専門的分野の指導である。

那須烏山市職員給与条例等の一部改正について

議員 人事院勧告により公務員の給与が0・23%引き下げられる。本市職員全体の減額を伺う。
総務課長 職員給与の平均で0・23%引き下げ、減額は320万円程度である。
議員 本市職員の平均給与は、全国自治体市町村に比較し高いか低いか伺う。
総務課長 ラスパイレス指数が97・9%であり高くない。
※ラスパイレス指数：国家公務員の給与を100とした場合の地方公務員の給与水準の指数

那須烏山市立図書館設置及び管理条例の一部改正について

議員 図書館が指定管理者委託になるが、図書管理・購入について伺う。
生涯学習課長 図書の選定は選定業者から選書リストを提出させ、教育委員会が決定する。

議員 図書等の損傷、盗難について責任は市か、指定管理者か伺う。
生涯学習課長 図書館の損失、滅失、盗難等の責任は、軽微なものは指定管理者が負う。

議員 現在図書館には司書の資格を有する職員がおり、また一般事務職員についても指定管理により配置換えが予想される。市の対応を伺う。
生涯学習課長 司書有資格者との話し合い、また毎年行っている異動希望調査している。

議員 指定管理者から提案されるボランティア参加、子供の司書講座、図書館祭り等は実現可能か。
生涯学習課長 指定管理者から提案の各種事業、行事については実現できると考えている。

那須烏山市立図書館の指定管理者の指定について

議員 指定管理者から提案されるボランティア参加、子供の司書講座、図書館祭り等は実現可能か。
生涯学習課長 指定管理者から提案の各種事業、行事については実現できると考えている。



みなみすタウンイルミネーション(昨年12月)



那須烏山マラソン大会(昨年12月4日)

平成23年度補正予算質疑

た、図書購入費の負担は指定管理者、市のどちらか伺う。
生涯学習課長 臨時職員の再雇用は本人の希望があれば優先的に受け入れる。図書購入費は指定管理料に含まれる。

議員 地籍調査費899万6,000円増について内容を伺う。
都市建設課長 東日本大震災により基準点が移動したため、座標値点検の測量委託料である。

議員 公立保育園・幼稚園の正職員と臨時職員の配置について伺う。
生涯学習課長 関係課と連絡調整し、年度末までに示したい。

議員 農林水産施設の台風15号に関する災害復旧費15号に関する災害復旧費の中で、交付金2,000万円は国庫補助対象外になった工事に対する補助金か。
農政課長 市単独の復旧工事に充てる補助金である。

議員 水道事業で高瀬地区内配水管布設計委託料の内容と、トンネル工事の進捗状況について伺う。
上下水道課長 設計委託料は、口径100mmの水道管(県道神長地区90m、トンネル内430m、県道高瀬地区300m、計820m)である。

都市建設課長 トンネル工事の本体工事は完了し、現在舗装工事、照明工事を発注した。平成25年の春、開通予定である。

議員 図書館が指定管理者になることにより臨時職員の再雇用は可能か。また、図書購入費の負担は指定管理者、市のどちらか伺う。



平成23年度成人式(1月8日)



賀詞交歓会(1月11日)

12月議会の本会議日程と傍聴者数

月 日	内 容	傍聴者数
11月29日(火)	開会・上程・採決	6人
11月30日(水)	一般質問	9人
12月 1日(木)	一般質問	8人
12月 2日(金)	一般質問・閉会	13人
	計	36人

議会を傍聴してみませんか



議会を傍聴することは、市政を知る最も良い方法です。
くわしくは、議会事務局までお問い合わせください。(TEL0287-88-7114)

議会の動き

平成23年10月

29日○議会だより第23号発行

31日○栃木県市議会議長会議及び議員・事務局職員研究会(真岡市)

11月

1日○経済建設常任委員会視察研修会(～2日山形県米沢市等)

7日○文教福祉常任委員会視察研修会(～8日山形県東根市等)

16日○総務企画常任委員会視察研修会(～17日宮城県石巻市等)

21日○議会運営委員会
○議員全員協議会
29日○第7回定例会(12月2日まで)

12月

1日○文教福祉常任委員会

2日○議会広報委員会
○行財政改革特別委員会(市長への要望活動)

21日○文教福祉常任委員会委員と本市結婚推進員との意見交換会

平成24年1月

13日○議会広報委員会
19日○議会広報委員会

研修報告

総務企画常任委員会

総務企画常任委員会では、平成23年11月16日～17日に宮城県石巻市小船にある防災拠点としての道の駅「上品の郷」と南三陸町内の東日本大震災の被災状況について視察研修して来ました。その概要を報告いたします。



太田駅長から説明を受ける委員(11月16日)

道の駅「上品の郷」は三陸自動車道河北IC近くにあり、平成17年に設立された農産物販売、レストラン、温泉施設、コンビニエンス運営と4部門の業務内容です。現在、国土交通省に登録された「道の駅」は、全国に936駅ありますが、その中でも「道の駅ベスト10」に入る経営内容です。

3月11日の東日本大震災では震災直後から避難所となり、上下水道、電気ガスがストップの中、毎日2、500食のおにぎりとお新香を1週間提供したそうです。その後も生鮮食品、温泉を絶えず提供。広大な駐車場は、被災地からの車で埋まり、特に温泉施設には、震災前の客数を大きく上回る1,000人近くが毎日訪れていました。

駅長の太田実さんは「震災翌朝の光景が忘れられない。大きな被害を免れ、震災当日も営業を続けたが、

翌朝の営業前には着の身着のままの被災者が行列を作っていた。世の中の常識はあったが、震災で世の中の常識が信じられなくなった」と話してくれました。

被災地の石巻市、南三陸町の現状を目のあたりにし改めて惨状の凄まじさに茫然としました。屋上には津波によって乗り上げられたバス、そして船がそのままの状況に、昨日までの街並みはない。地空間が広く感じる凄まじい光景でした。話すも涙、聞くのも涙でありました。

あの震災から9ヶ月。一日も早い復興を願っています。本市でも道の駅構想がありますが、防災拠点も含め安全安心の街づくりはどう取り組んでいくのか調査研究してまいります。

総務企画常任委員会
委員長 佐藤 昇市

3月定例議会は、3月6日(火)開会予定です。

※正式な日程は、2月28日に開催される議会運営委員会で決定されます。

研修報告

文教福祉常任委員会

文教福祉委員会の研修についてご報告いたします。

初日は3月の東日本大震災で津波の大被害を受けた宮城県南三陸町を訪問しました。町役場、病院を始め町の中心が壊滅的な被害を受け、まさに悲惨な状態そのものでした。

この歴史的大災害を後世に語り伝えていこうと被災後に発足した「語り部ガイド」の地震と押し寄せる津波の体験話を聞き、その生々しさに鳥肌立つ思いをしました。最後まで町民に高台への避難を呼びかけ続け、自らも犠牲となった女性職員が勤務していた町の防災センター跡には、今も生花やお菓子等を供え、手を合わせる姿がありました。また、瓦礫の整理途中で多くの労力と時間を要すると痛感しました。

翌日は山形県東根市の福祉・医療サービスの拠点となる子育て支援センター「さくらんぼタクトクルセンター」を視察しました。施設の主な機能を紹介します。

- ① 子育て支援（保育所・子育て支援センター・遊びセンター）
- ② 保健センター（健康診断・調理実習）
- ③ 福祉エリア（福祉団体や障がい者の活動の場）
- ④ 医療エリア（休日診療所）
- ⑤ 共有エリア（ふれあいプラザ、大ホール等）



東根市役所で研修する委員

委員一同、大変有意義な研修ができました。文教福祉常任委員会
委員長 渡辺 健寿

研修報告

経済建設常任委員会

委員会では、11月1日から2日に宮城県石巻市と仙台空港周辺の被災地の視察と、山形県米沢市で「行政改革について」をテーマに視察を行いました。当日は天候に恵まれ視察日和でありましたが、半分不安もありました。仙台空港に着いたときは、空港内は何もなかったように平常に働いていました。ロビーでは人間の身長を遥かに上回る3m以上の海水の浸入した爪跡があり津波の恐ろしさを感じられた第3歩でした。



委員の後の柱には、津波到達高さが表示されている(仙台空港)11月1日

車はさらに漁港方向に向かいました。外の風景は廃車になった何百何千もの車が山積にされていたり、多量の瓦礫が野積みになれ臭いを放っていました。家や倉庫が廃墟になったままで、復旧作業が遅れている状態でした。私たちは海岸近くの住宅地に向かいました。海の青さと空の青さが重なり、夏には多くの海水浴客で賑わう所であると思いましたが、ここには老人施設があり、この施設も浸水し廃墟になっていました。入居者は全員助かっていると思いましたが、後で入居者は仙台空港に全員移動して助かった話を聞きました。

また、「米沢市の行政改革について」では、特徴として行財政改革推進市民委員会と市職員アンケートが挙げられます。行革推進市民委員会は、公募2名、学識経験者8名からなり、市長を本部長とする本部と本部幹事会がうまく役割分担をして基本目標に向かって機能していると思えました。また、進捗管理を行っていることだと思えました。市職員アンケートでは、毎年アンケートを行って職場の状況や行財政改革がどれくらい進んでいるのか、5年間のデータを管理していることとあります。市職員が同じ目標を共有することは当市においても必要であると思えました。また、行革推進市民委員会の学識経験者の割合も参考になりました。

経済建設常任委員会
委員長 高德 正治

あとがき

平成24年の新年を迎え、第1号の議会だよりとなり市民の皆様のご健康で一步前進となる一年であることを期待するものです。昨年を振り返ると災害の多い年と言わざるを得ない一年。3月11日の東日本大震災と津波被害、津波による福島原子力発電所の爆発。未だ復旧の兆しは先になるでしょう。「人間は知恵があるから近道をする」と聞いた事がある。福島第1原子力発電所の出力は46万kw、必要人員は約6,000人。それに対し、風力発電は1基で3,000kw、100基を約20人で管理運用できるという。福島原発の出力を賄うには150基強、約30人に対応できる事になる。世界で唯一の被爆国である日本こそが「非核三原則」を重んじ、自然エネルギーを再度、見直す必要があるのではないだろうか。風力発電所が、もし津波被害にあったとしても鉄屑で済むが、「原子力」は人間だけでなく地球を破壊する。人間は、あまりにも近道を選んでしまったのか、「安全神話」では済まされない。先日、ブータン国王夫婦が来日され「幸福度世界一」のお土産を置いて帰国された。経済の発展だけが幸福度に結びつくものではない事も教えられた。

(平山進記)